

第1回高野口中学校移転改築検討委員会
会議録

開催日時	令和8年5月26日(火)19:00～21:10
開催場所	橋本市教育文化会館3階 第1研修室
出席者 (委員)	二宮委員、廣岡委員、北澤委員、木村委員、森本委員、岡本委員、井澤委員、村上委員、前田委員、北浦委員、向委員、入山委員、福本委員、久保委員、丸山委員、東川委員 【出席委員16名】
欠席者	松本委員、花岡委員、岸田委員
事務局	橋本市長 平木哲朗 橋本市教育委員会 今田教育長 教育委員会事務局 岡教育部長、阪口参事 同 丸山教育総務課長、裏川教育総務課長補佐、森田教育総務課課長補佐、増谷施設係長 (株)東畑建築事務所:高木、花村、神谷
次第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 委員紹介 4. 委員長・副委員長選出 5. 委員長・副委員長挨拶 6. 諮問 7. 基本計画の概要 8. 協議事項 (1)基本コンセプトに向けて (2)ワークショップに向けて 9. その他 10. 閉会
資料	(当日配布資料) ・橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会条例 ・委員名簿 ・諮問(写し) ・座席表 ・ニュースレター ・地域ワークショップチラシ ・アンケート
公開/非公開	公開
傍聴者	3名
その他	なし

【議事要旨】

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1. 開会	
事務局	本日の会議は、橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会条例第6条第2項の規定により、現時点で委員19名中16名のご出席いただいております、過半数の出席がありますので会議は成立していることを報告します。
事務局	橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会条例第7条により「会議は公開する」となっていますので、公開の会議としてよろしいでしょうか。 (委員了承) 本日の傍聴人は3名です。 なお、傍聴のかたの会議中の録音、撮影及び、市が議事録を公開するまでの会議の内容についての SNS 投稿はご遠慮願います。 それでは、開会にあたりまして、平木市長からご挨拶申し上げます。市長お願いします。
市長	橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。 本日は、検討委員の皆さまには、お忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。 また、平素より本市の教育行政に多大なるご理解ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。 さて、昨年度、高野口中学校の移転改築の移転候補地の検討にあたり橋本市立高野口中学校移転改築検討委員会を開催し、本日お集まりの多くの方のご尽力もいただき、「旧応其中学校跡地」を移転候補地とする答申をいただきました。その後、同地を高野口中学校の移転先として決定したところです。 このたびは、移転改築する高野口中学校の基本計画にかかる建替え基本コンセプトや整備方針に関する諮問に答申をいただき、今後の高野口中学校の建設に反映できるよう努めてまいります。 移転改築した学校が、生徒や市民の皆さまにとって末永く地域に愛されるよう、委員の皆さまには、幅広い視点から、活発なご議論をいただきますようお願い申し上げます。 今後ともよろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。 このたびの委員会では、令和7年度に高野口中学校のまちなかへの移転改築に向けて、移転改築用地の選定について諮問を行い、答申をいただき、候補地を旧応其中学校跡地に決定しました。

	令和 8 年度においては、基本計画に関する建替えの基本コンセプトや施設整備方針について、幅広いご意見をいただくために設置するものです。 答申をいただいた後には、建設に向けて、実務的な諸準備も進めていく必要もありますので活発なご議論をお願いします。
3. 委員紹介	
4. 委員長・副委員長選出	
	委員長に和歌山大学教育学部教授の二宮 衆一委員、副委員長に高野口中学校PTAの木村 譲治委員を選出し承認される。
5. 委員長・副委員長挨拶	
委員長	和歌山大学の二宮と申します。この度はこちらの検討委員会の方の委員長の職につかせていただくことになりました。このあと第 1 回の委員会としまして建て替えの基本的なコンセプトについて、皆さんの活発なご意見を聞かせていただければと思っています。委員長の挨拶として、今後の学校について少し話します。建物の建て替えの観点からすると、少なくとも 3 つぐらいの視点が必要になると思っています。1 つ目は子供たちは学校で過ごす時間がかかなり長いです。朝の 8 時前ぐらいから 4 時あるいは学童保育に通っている子供ですと 5 時 6 時までという形で、8 時間から 10 時間ぐらい学校での生活を過ごすことになると思います。学校を考える時にも、生活の視点といったことが重要になってくると考えています。例えばトイレです。大学ではオープンキャンパスをして、高校生に大学にきてもらうのですが、アンケートをとると必ず挙がってくるのはトイレです。和歌山大学は改修をして大分きれいになりましたけれども、数年前まではオープンキャンパスのアンケートにトイレがきたない暗くてじめじめしているという声が非常にたくさん聞かれました。トイレというには快適に生活していく上で、非常に大切なものになります。学生さんはそういうところをすごく大切にしているということがあっていると思っています。もう 1 点生活という点で紹介させていただくと、ちょうどで 2 週間ほど前に別の委員会で、子供にこれからの学校でこういうものがあってほしいというアンケートを取った結果を聞きました。そうすると、小学校の 1 年生から中学校の 3 年生まで第一位として挙がっていたのは何かというと、ほっと出来る居場所が欲しいという意見が全ての学年で 1 番でした。学校に通っている中で、ちょっとホッとするような落ち着いたような場所、例えば、友達と廊下で少し 2~3 人で話せるような場所とかそういったものが子供の希望なんだと感じました。 第 2 の視点としては、学習ということで、例えば ICT が学校に入ってきたように学校での授業・学習も 20 年前 30 年前と比べると違った形になってきています。もう今の小学校、中学校の中では、学校の先生の話の前向いてイスに座って聞いている学習のあり方は普通ではありません。普

	通になっているのは、ペア学習であったり、グループ学習であったり、あるいは自分で選択して授業を聞いていく。そういう学習のあり方が一般的になってきています。この学習のスペースですね。教室環境のあり方っていうのも、今求められるいる学習のあり方であったり、今後求められるような学習のあり方に即した環境づくりといったものが2点目として求められるいると感じています。そして3点目は地域という視点です。学校は和歌山でもコミュニティスクールが行政の方で進められていますように、学校はやっぱり地域の核になるものなんです。学校には様々な資源リソースといったものがあります。なので、その地域と連携しながら学校を核にしながら、地域全体を盛り上げていくような学校の姿というのが、求められていると思います。私自身は、日本の教育と、実はイギリスの教育の方を専門にしておりますけれども、イギリスでは2000年代くらい、実はイクスペンデットスクールの形で、拡張学校と呼ばれているんですけども、地域の中心として学校をとらえて、学校のこの教育機能を地域と結び付けていくような考え方で、10年間程政策がなされていました。そういう形で、地域と結びついていく学校のあり方、そういった学校像といったものが3点目として求められてきているのではないのかなと思っています。ということで、様々な視点があると思います。そして、今日お集まりの委員の皆さんは、それぞれその地域であったり、学校であったり、様々な観点で席についていらっしゃると思いますので、この後で基本コンセプトの意見を活発に出していただければと思っています。ご協力の程よろしくお願いいたします。
副委員長	改めまして木村です。よろしくお願いいたします。先ほど二宮教授の方から専門的な話、色々お聞かせいただきましたが、私は教育関係、建築関係素人です。最初教育総務課さんからお話いただいた時は、多分いけないとお話をしたんですが、1回目の検討委員会でもお伝えしたように子供たちと橋本市民が安心して通える学校。今も安心して通えるかもわからないんですけども、そういうために街中に市長はじめ皆様のご尽力のもと建て替え移転が進んでいくのかと思って、私でよければ微力ながらお手伝いさせていただきますというところでお返事させていただきました。皆様のご都合あるかと思うんですけども、この2回目の検討委員会が、私の中では肝になると思っています。専門的各度から、保護者の方たちの角度から、教育関係の方の角度からいろんな目を見て、今の学校を建てるのではなくて、20年50年70年先を見据えた新しい中学校スタイル、市民が安心して通える建物。それと市民全員で協力して作り上げていく、こんな学校にしていきたいと思っています。多分皆さん専門的な知識はある方、無い方差があると思いますが、そういうのじゃなくて皆さん出席していただくので、会議中は率直な議論をどんどん出していきたいと思っています。せっかく出席していただいたんで、ぜひ皆様のお気持ちをこの場に発していただけたらと思っています。最後までよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
6. 諮問	

7.基本計画の概要	
事務局	それでは、基本計画の概要についてご説明します。 まず、「基本計画」とはこういったものかについてご説明します。 今回の学校の建設のように、大規模な公共施設を建設する際に、建設にかかる基本的な考え方等を整理してまとめたものをいいます。 今回の検討委員会についても、委員の皆様から基本コンセプトや整備方針についてご意見をいただき、基本設計に生かしていけるよう基本計画をまとめていきたいと考えています。 ここでは、これから作成していく基本計画書の構成(案)についてご説明します。 2ページをご覧ください。 現在のところ予定している基本計画の構成(案)としては、全部で6章の構成としています。 第1章は「基本計画の要旨」として、背景及び目的、上位計画の考え方、基本計画での検討経過のプロセスデザインを記載する予定です。 第2章は、「移転候補地の概要及び決定」として、前回の検討委員会での2つの候補地の検討や比較検討を記載する予定です。 第3章は、「新しい学校の目標」として、建替えの基本コンセプトや整備方針を記載する予定です。 特に、この章に記載することをこの検討委員会で答申としてまとめる方向です。 第4章は、「施設整備計画」として、想定計画規模、想定諸室及び面積を記載する予定です。 第5章は、「事業計画」として、事業スケジュールを記載する予定です。 第6章は、その他となります。 以上は、概要としての基本計画の構成(案)となります。 なお、基本計画の構成について、今後の検討によって変更となる可能性もありますのでご了承ください。
8. 協議事項	
委員長	ありがとうございました。 それでは、次第の8、『協議事項』に入っていきたいと思います。 それでは、次に、一つ目の「(1)基本コンセプトに向けて」について事務局から説明をお願いします。
事務局	協議事項の1「基本コンセプトに向けて」について、ご説明いたします。 高野口中学校の建替えにあたり施設の基本コンセプトを検討していくう

えで、本市が示している考え方や、近年の学校施設のあり方など、検討していくうえで意識していただいたうえで議論していただければと考えています。

4 ページをご覧ください。

まず、文部科学省が定めている「新しい学習指導要領」です。これは、国がさだめる教育課程の基準になります。中学校については、令和3年度から全面実施されており、キーワードは「主体的・対話的で深い学び」となっており、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視されており、これらを通して、「学びに向かう力、人間性」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を、社会に出てからも学校で学んだことを活かせるようバランスよく身につけることを目指しています。

なお、学習指導要領は、およそ10年ごとに改訂されており、次期学習指導要領は2030年度から全面実施される予定です。

2点目は「令和の日本型学校教育」についてです。

5 ページをご覧ください。

急激に変化する予測困難な時代のなかで、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるようにすることが必要とされています。

そのために、「令和の日本型学校教育」として、全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を実現すべきとされています。

「個別最適な学び」とは、「個に応じた指導」を一層重視し、充実を図るものです。そのためのツールの一つとしてICTがあげられます。

また、「協働的な学び」は、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要とされ、集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出すことをされています。次に、これからの「新しい時代の学びを実現する学校施設のあり方について」ということで、2022年3月に文部科学省が公表したもので、1人1台の端末整備を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、新しい学校施設の在り方について、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」でなされた議論を踏まえて取りまとめられたものです。

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）を表すキーワードとして「Schools for the Future」、「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する」とのビジョンが示されています。

ここでいう「未来思考」の視点とは、学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定観念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場になる。ことを意味し、どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する。とされています。新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方として、全部で5つの方向性が示されています。

「新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮」する視点から3つの方向性が示されています。

1つめは、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現すること。

2つめは、新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現すること。

3つめは、地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現すること。

つぎに、【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】する視点から

2つの方向性が示されています。

1つめは、子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現すること。

2つめは、脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現すること。

が示されています。

6 ページのスライドを例にすると、8 枚のイラストがありますが、

「柔軟で創造的な学習空間」については、左から、1 枚目が、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿を表しています。

左から2 枚目が、学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿。3 枚目が、学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿。

4 枚目が、映像編集やオンライン会議のための「スタジオ」、情報交換や休息ができる「ラウンジ」など機能性の高い執務空間としていく姿。を表しています。

「健やかな学習・生活空間」として、左から1 枚目が、地域材の活用により、快適で健やかな環境を生み出し、環境負荷の低減に加え地域の活性化や文化の継承にもつなげていく姿。

2 枚目が、断熱性能を高めて空調設備が設置された体育館を、大人数での多様な活動も展開できる大空間として活用していく姿。を表しています。

「ともに創造する共創空間」として、左から1枚目が、地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動ができる共創空間としていく姿。

2枚目が、他の公共施設との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿。

として示されています。

つぎに、本市の状況について説明します。

9ページです。

本市の教育行政の根本となる指針である「第3期橋本市教育大綱」において、理念として、「人が学びあい、共に育むまちづくりー自治と協働のまち橋本市に向けてー」を掲げています。

この理念を実現するために基本方針として3つのテーマと13の重点目標を定めています。

基本方針の1つめが、「豊かな心と健やかな体を育みます」であり、重点目標として、

- (1) 人権教育を推進し、その実践を支援します
- (2) 子どもの道徳性を育む教育を推進します
- (3) 郷土愛を育てるため、ふるさと学習の推進や地域の歴史文化の保護・活用を図ります
- (4) 文化芸術・スポーツに親しむ機会を提供します
- (5) 食の大切さの学びを推進します

の5つがあります。

基本方針の2つめが、「家庭教育・学校教育・社会教育の中で多様な学びを育みます」であり、重点目標として、

- (6) 基礎学力を基盤とし、学習者の能動的な学びを推進します
- (7) 持続可能な社会の創り手を育む教育（SDGs・ESD）を地域と協働しながら推進します
- (8) 保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の連携を図ります
- (9) より良い学びの場のための教育環境を整えます
- (10) 心身の健康の保持増進を図り、健康な生活を実践するための教育を推進します
- (11) 読書活動の推進と図書館サービスの充実を図ります

の6点としています。

基本方針の3つめが、「地域・家庭・学校が連携した地域教育力を育みます」です。重点目標として、

- (12) 共育コミュニティと学校運営協議会が連携・協働し、大人も子どもも学びあう場づくりを推進します
- (13) 関係機関が連携し、子どもの健全な育成と家庭教育を支援します

の2点としています。

つぎに（１０ページ）

子供たちにとって、より望ましい教育環境と本市における学校施設の適正規模・適正配置の基本的な考え方を整理し、将来の教育環境の整備方針となる「橋本市新しい学校づくり推進計画」では、目指す子供像を「未来を創造し、たくましく生きる』としています。

これは、子供が、多様な学びや、多様な意見、人間性に触れることから学ぶ「自分の考えを表現すること、認められる場や活躍できる場を獲得すること、自分事として捉えること」等はとても大切な経験です。

これらの経験から子供は、人生や社会に生かそうとする学びに向かう力を身につけることができ、複雑で予測困難な社会の中でも、未来に向かって創造し、力強くしなやかに、やさしさを持ち、たくましく社会を生き抜く力が備わっていくことから、目指す子供像を定めています。

この計画では、記載しているとおり、目指す学校づくりの７つの重点目標をさだめています。

これらの、重点目標の実現に向けた学校施設機能の整備の方向性として、５つの方向性を定めています。

１つめは、「多様な学習形態や ICT の活用につながる教室や机の整備」

これは、多様な学習形態に対応し、体験活動や創作活動に主体的に取り組むことができるような教室の整備や、ICT の活用を推進するための１人１台端末に対応した教室用机の整備に努めるものです。

２つめは、多目的スペースの設置。教室に隣接した多目的スペースを設置し、多目的スペースと教室の仕切りを可動式にするなど、教室と多目的スペースの空間的・機能的なつながりを持たせ、教室の拡張性や可変性を向上させるものです。

３つめは、地域との「共創空間」の配置

学校と教育関係者における連携や協働の取組をより強化するため、関係者がともに創造的な活動を企画・立案したり、交流のきっかけとなる場として、校内への「共創空間」の配置するものです。

４つめは、学校図書館、図書コーナーの充実

本や情報に対するより良いアクセス環境を構築し、豊かな読書体験へ繋げるための学校図書館の充実や、校内の空きスペースなどを効果的に利用した図書コーナーの設置など、本を通じた交流のきっかけとなる場所の配置をするものです。

５つめは、省エネルギー化や内装の効果的な木質化

環境負荷の低減や快適性の確保のため、省エネ性能を高める屋根や外壁の断熱化、内装の効果的な木質化による、温かみのある学びの空間の創造や快適性の向上を図るものです。

以上の５点です。

これらを、重点目標の実現や、変化しつづけるであろうこれからの時代の学びに柔軟に対応できるように、各学校施設の状況に応じて整備していくこととしています。

つぎに、重点目標の２つめに「はしもと型学校・地域連携カリキュラムを

	生かした9年間の学びを提供し、子供が思考力、表現力、問題解決力等を身につける」をあげています。 これらを実現するための方向性のひとつとして、「9年間の一貫教育プランの作成と実践」を示しています。 これは、中学校区ごとの共育コミュニティにおいて、「育てたい子供像（めざす姿）」と「校種ごとの活動内容」を「グランドデザイン（教育の全体構想）」としてまとめ、活動内容を明確にし、9年間を見通した一貫した学びを充実します。これにより、9年間の教育が連続的かつ統合的に進行し、学校・家庭・地域が一体となった特色ある取組を進めることで、子供が安心して学び、自分の能力を最大限に発揮できる環境を提供します。また、スムーズな学年移行と発達段階に応じた着実なステップアップを実現します。としています。 次11ページです。 資料の方では、高野口中学校区のグランドデザイン（案）として示しています。 グランドデザインの目的は 教育の在り方を家庭や地域と共有する。 社会と学校が一体となり、目指すべき教育の在り方を家庭や地域の皆様と共有し、共通の目標に向けて取り組んでいくことを目指しております。 2点目は「よりよい学校教育」を通じて「よりよい社会を創る」 学校は、地域・社会の重要な一部であることを念頭に、学校教育が果たすべき役割を家庭や地域と共有しながら、共に「よりよい社会」を創り出すための連携を強化してまいります。 3点目はこれからの社会を担う子どもたちの育成 今後の社会を形成していく主体となる子どもたちに必要とされる資質・能力を明らかにし、それらを学校教育を通じて育成することを目標としております。 4点目は地域との連携・協働の推進 地域の方々との連携・協働を軸に捉え、目指すべき学校教育の実現に向けた取り組みを進めてまいります。 作成の流れ グランドデザインの作成に関しましては、昨年度より各中学校区の小・中学校長を中心に進めております。 今年度は以下の重要な会議等で内容を共有し、さらなる議論を重ねながら、令和8年度版のグランドデザインとして施行する予定です。 共育コミュニティ本部会議や 各校の学校運営協議会をへて内容を共有する予定です。 また、毎年度内容を確認・精査しながら変更点があれば適宜修正を加え、さらにブラッシュアップを行います。 加えて、各校および各園での提示や資料の配布を通じて、目指すべき教育の在り方について家庭や地域の皆様と共有し、より実効性のある取り組みとして進めてまいります。
--	---

	学校教育の充実、地域と社会の発展にも寄与する重要な取り組みであると考えております。委員の皆様のご理解とご協力を賜りながら、より良い教育環境の構築に向けて全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。 資料の方ですが高野口中学校区のグランドデザインですが、「対話のある社会の形成者」となっております。 形成者とは社会をよりよい方向に創り上げようとする市民を指します。 目指す「こども」の姿とは、物怖じせず、自分の考えをみんなの前で話することができるとともに、未来を創造し、たくましく生きる。 目指す「家庭」の姿とは、対話を通じた家庭教育力の向上 目指す「地域」の姿とは地域とともにある、開かれた学校となっております。 高野口中学校の目指すテーマとして心豊かで未来に向かって意欲的に取り組む生徒の育成 こどもの姿として、 ・自ら考え、適切な行動、判断ができる生徒 ・きちんとけじめをつけ、意欲的に取り組める生徒 ・自分や他人を大切にし、感謝の気持ちを表現できる生徒 ・自分や社会の未来を創造し、対話を通じて協力し、行動できる生徒 家庭の姿として ・対話を通じた生徒の人格形成や、進路選択などへの親としての助言や支援 ・家庭学習への協力 地域の姿として ・中学校と共育コミュニティ、学校運営協議会とが、連携した交流、教育活動 ・生徒や家庭への持続的なサポート となっております。 応其小学校、高野口小学校の大きなテーマは 自ら学び、ともに高め合う子どもたちを目指して「ウェルビーイングな学校」未来を創る子どもの育成（自己肯定感を育む） こどもの姿として、 ・よく考え、学びをたのしむ児童 ・基本的な生活習慣を身につけた健康で明るく元気な児童 ・みんなと力を合わせ、進んで行動する児童 ・自分を大切にするとともに、お互いの違いを認め合い他者の気持ちが理解できる児童 ・粘り強くがんばる、自立した児童 ・命を大切にし、美しいものに感動する児童・自ら考え、進んで学び、表現する児童 ・夢や目標を持って努力を続ける児童
--	--

	・心優しく思いやりがあり利他の心を大切にできる児童 ・学校や地域に愛着と誇りを持つ児童 ・「やってみよう・ありがとう・なんとかなる・ありのままに」のウェルビーイングの4因子を大切にできる児童 家庭の姿とは ・思いやりのある子どもに育ててほしい ・対話の機会の創出 ・家庭学習の推進 ・言葉を大切にできる温かい家庭 ・子どものチャレンジを応援できる家庭 ・読書習慣を育む家庭 地域の姿とは ・情報提供の充実 ・地域共育コミュニティを中心とする地域や家庭と連携した教育活動 ・学校運営協議会・学校評価の充実・学校と連携・協働する地域 ・学校教育に参画する地域 ・共育コミュニティでつながる地域 となっております。 高野口こども園、応其こども園、香久の実保育園のテーマは やりたいことに挑戦できる子どもの育成 こどもの姿とは ・自分のやりたいことに集中して取り組むことのできる環境づくりを大切にする ・地域とつながる1歩目 家庭の姿とは ・家庭での対話を大切にする ・子どもを温かく見守る姿を大切にする 地域の姿とは ・地域の方からつながる1歩を大切にする ・日常生活の中でのつながりを大切にする。 となっております。 これが高野口中学校区グランドデザインの主なテーマとなっております。これらを踏まえていただきながら、みなさまにご意見をいただき、地域で何が出来るかこれからの子ども達に必要な未来を見据えた学校を目指していきたいと考えています。基本コンセプトの説明は以上となります。
委員長	説明ありがとうございました。 今から委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。このあと第2回の検討委員会では基本コンセプトの素案が示される予定になっています。第2回の基本コンセプトの素案ですけれども、委員の皆様から出た意見とこの後予定されております各地域でのワークショップの意見を含めてコンセプトの素案がつくられることになっています。この場において委員の皆様から出して頂く

	意見の方もこのあと基本コンセプトの素案に反映されることになると思います。そういう大事なポイントになりますので、委員の方お1人ずつ基本コンセプトを考えていくうえで、この点をぜひ大切してもらいたいご意見などを聞かせていただければと思います。順番におひとりずつ意見を頂戴します。次回の議論の土台をつくるために皆様の率直な意見をお聞かせいただければと思います。よろしくお願いします。
委員	第1は安心して学校へ通える、行きやすい学校を目指してほしいと思います。
委員	1番大きいのが、中学校区のテーマ「対話のある社会の形成者」これは意味的に非常に難しいじゃないか。ネットで調べてもなかなかこの意味が把握できない。もっと中学校区のテーマであるならば、私でもわからない中学校の生徒さんならなおさら難しいのではないかな。もっと誰もがわかる様なテーマにしていただけたらと。これはもう皆さんで決まったことなので変えられないというのであればいたしたかないんですけど。この基本計画の中でいろいろ出されているんですけども、柔軟で創造的な学習空間とかいろいろ生活空間、共創空間、この空間を創るに関してはなおさら世界の情勢を考えたときに建築費が非常に高騰しているという中で、この空間を作るには、まずは資金が当然必要となってくる。その予算というものをまず考えた上で、これぐらいのものを考えていくのが、ちょっと一つコンセプトとして必要なのかな。それ以外もいろいろあるんですけども、この2点だけでお願いします。
委員	今回この資料を前日に渡されて、いきなりコンセプトをこの時間内で考えてという、この時間の使い方がおかしいのではないかと思います。もうちょっと事前に早く出してもらって、それで家とかでゆっくり時間をつかって考えて、それで意見をここに持ってきてほしい。それを教育委員会の方にも、前からずっと訴え続けてるんですけども、今回もやっぱり前日になったことが、私は一番どうなのかなというのが意見としてあります。事務局に読み上げてもらったんですけど、全くもって頭に入っていない。文字ばかりで、理解が短い時間ではできないなという感じでした。先ほどの委員さんも言ってらしたように、誰でもわかる言葉で、単直にすぐわかる感じの方がいいんじゃないかとすごく思いました。あとは開けた環境にばかり目がいつてるんですけども、やっぱり、うちも娘がいてるんですけども、教室に入れなくなったことがあって、別の教室に行かしてもらったんですけども、そういう子にもちゃんと目を向けてもらえるような。広い空間だけでは、今の子供は結構「わーって」なっちゃうんです。広い空間だけだとまとまらないと。そういう子にも目を向けてもらって、本当に安心できる、子供たちも通えるような学校がいいなと思いました。
委員	自分が思っていることなんですけど、橋本市でESD教育していただいて、持続可能なことで、SDGsもそうなんですど誰一人取り残さないという子供の教育中で、いろんな子供がいて、成長が早い子、遅い子、出来る子、出来ない子、いろんなタイプがいてるんですけど、やっぱりこう未

	来を担う人材を育てるところで、一人一人の子供にとっては持続可能な社会の担い手であるということで、しっかりとその ESD 教育を引き継いでいただいて、誰一人取り残さないそういった教育のコンセプト、今までやってることをさらに新しい学校づくりをすることになりますので、教室も含めてグラウンドデザインもそうですけれども、1人1人を育てていく今の ESD 教育をしっかりと継承していくような学校づくりをしていただきたいと思います。
委員	小学校の学校運営協議会のものです。中学校には行かせて貰っているが年に1回授業を見せてもらうぐらいで、あまり普段交流はないんです。夏休みに小学校、中学校の先生方の3校の合同研修会が高野口の方で行なわれてまして、参加させていただく機会がありました。先ほどちょっとご意見ありましたですけども、対話のある社会の形成者というのは、その中でも出てきたなど。去年の合同研修会でもどんな構想デザインかな。先生方の中から出てきた言葉を大事にしてもらえたらというふうに思いました。それをもって小学校授業の活動を見せて貰ったら、小学校の先生の方もそれを意識されて、発達段階に応じた指導をしたりされています。今年は特に活動という面で見せてもらったんですけども、それに活かされてるのかなとそんな風に思っています。コンセプトはなかなか出ないですけども、安全安心な環境ということが言われました。多くの人が入り出すことによって、逆に安全安心な環境になるのかなと逆行することですけど、こう思ってますので、複合的な施設にもなるということですので、そうことも意義が大きいかなと。もう一つは小学校のアンケートでもなかなかその活字離れていいですか文字離れがあって、家でもなかなかその読書の時間がほとんどない。それで図書館の充実ということの一つあげていただけたらと思います。学校図書室として、ここの図書館との連携を大事にしていけば子供たちも興味をもつであろうし、親御さんもちっと図書館行くの遠いので、学校の図書館が充実したら子供と一緒に本借りに行ける。親の環境をちょっと変えることになるのかなと思います。図書館がやられているビブリオバトルでありますとか、調べる学習コンクールもその学校図書館に持ってきたら、ちょっと違った意味で活性化するのかな。最後ですけども、これは1回目言わせていただいたんですけども、9年間の学びと書かれていますけども、ぜひとも伊都中央高校生との交流が難しいという話がありましたけども、施設だけじゃなくて、そういう学習や生活の中に高校生も入ってきたら、もっと素晴らしいものができるから、そんな風に思いました。コンセプトになってないのですみません。
委員	たくさんコンセプトを考えていただいてありがたいんですけど、すみませんあんまり賢くないのか入ってこなくて申し訳ないです。例えば他の地域でも実際に運営されている学校を例に上げていただいたり、そういうのを見せてもらえとちょっと理解しやすかったのかというのがあります。それと今回の検討委員会の3回と、それとは別でワークショップも3回といろいろ計画してくださっているのありがたいんですけど。

	現在の中学校に通っている子供たちは、これから暑くて熱中症の危険と かにさらされて校舎も整えてはくださってるけれども、なんか継ぎはぎ というか、もう仕方ない部分はわかるのですが、すごく危険な状態でみ んな当たり前のように通っている状態です。この日程をもうちょっとで きれば臨機応変に「きゅっと」できるところはしていただきたいのがあり ます。それから新しい中学校に通う子たちは、現在はまだ小さい子達なん で、その保護者の方々に、すごくこの中学校のこと気にされてると思うん です。今の進捗状況を知る術があまりないし、どうなっているのか、何も してないという不安に駆られてる方がすごくいらっしゃいます。ですか ら、すごく便利なテトルというのが小中学校では使っているの、それで 簡単に進捗状況を流したりとかできるようなシステムになったら、みな な安心するんじゃないかなと思います。
委員	不登校気味で、現に高野口中学校でも全然学校へ行っていない子がいま すし小学校でもいます。結局これからの学校で言うたら、こういう子らが 安心して通える学校にする。これをどうしたらいいか。今の相談室は入り やすいですか。相談室はどこにあるのかわからない。だから、いつでも相 談できるような気軽に入れるような場所に相談室を地域も保護者も子供 も一旦職員室に上がって先生にすいませんみたいなしに、来たらすぐに 相談する。先生の顔見ないでそこで誰が会議しているのか。これは問題。 中学生がずっと待機するわけにはいかない。誰がそこで待機しているの かというふうな貸し館をしていくということ。相談しやすい対応を整え ていくということが大事だと思います。取り残さない教育で言うたら取 り残されている子がいます。どうしたらいいのか。橋本中央、紀見東、紀 見北、隅田も一点にどこかへ集めさせてそこで教育支援センターと相談 を連携相談、共育コミュニティもそこの中に入る。地域も中に入る。この 1点に集める場所をどこにするのか。この伊都中央高の中高連携の一角 を借りる。伊都中央高も子どもの心理状態をすごくわかっている先生も 沢山おられますので、校長先生もすごく理解ある人です。伊都中央高と不 登校対応について連携しやればいいと思います。先生は図書室が ほんと出来る居場所と言ってました。図書室の開放をどうするのか。今の 中学校は月曜日から金曜日まで地域も入って開放している。小学校もし ています。図書室の開放を昼でいいからを毎日開けていけるようにする には、地域のボランティアはなかなか毎日となったらしんどい。学校とし ての休憩時間や職員の働き方改革の問題もある。安心出来る居場所の図 書室のウェイトが大きい。先生とともに考えていく。毎時間無理なら2時 間目3時間目の間、昼の休憩時間、放課後、安心できるほんとできる場所 づくりが大事。地域やボランティアだけでは無理な話。登下校の道とか新 しい高野口中になったら正門どこにするのか。体育館の建て方一つにし てもいろいろあります。
委員	その建物を作る基本コンセプトなんやけども、私も元教員なんで、やっぱ り教育は人なり。人物だからまずは一番は中学生という生徒がどうい うものを求めて、先生方がどういうものを助けていたというところの原点

	にたちかえらなあかんと。建物だけがどんなんであつたら良いか。私らチョーク一本で授業していました。ものすごい授業方法は変わりました。1人1台のパソコンの関係もあるんやけど、先ほどのチャット GPT じゃないけどあんまりにも機械に頼りすぎて、本来の持っている人間の温かみとかというところから逸脱してきてると違うかなっていうことで。あんまり目新しいものを追い求めるよりは、私は温故知新。古きを尋ねて新しきを知る。もっと日本が培ってきた日本の教育の良さがいっぱいある。だからそれを踏まえた上で新しいものも入れていく形にしてもらえないかなと思ったりもします。建物コンセプトをどうするっていうよりは、先ほどの説明の中やったら文科省が言ってること。県・市が言うてることなんやと思う。理解できないと思うんで、そんなもんじゃなくて、子供たちが何を望んでいるか保護者が安心できる学校というのはこういう学校ですよ。図書館が必要、保健室が必要、居場所作りの場所が必要、そんなものを備えていく意味で、人を中心に据えた、子供たちを中心に据えたところへ戻してもらいたいな。建物だけにこだわらないでほしいです。
委員	私も読み上げていただいたのを聞いていてもだんだん頭が追いつかなくなってきた、もうどこの学校でもそれ大事よね。いいよねということがダラダラと並べられていて、それを読み上げられたわけなんですけれども。第三次橋本市教育大綱に関しましては、高野口中学校は外されているのかなという印象もずっと持っていました。そんな中でコンセプトというのは、ここにあげていただいたのはどれでもいいなと思うし、それに近いことをここで提案し発言しないといけないのかなと思うと、普通のお母さんとしては、こういう言葉は出てこないです。母としては、もう子供が安心で、安全に通える学校であればいいし、子供の思いは、多分その先生が最初におっしゃってくださったように、他の学校の子供たちがアンケートで答えたようなホッとできるような場所は欲しいとか。そういうところだと思います。沢山書いてある中でどれでもいいとは思いますが、立ち返ると、今は違うんですが、応其小学校の学校運営協議会に1年半だけ携わったことがありますして、その中で子供たちにとってアンケートを見て、学習時間が少ない、スマホのゲームを良くしている結果の中で、それでも応其の子供達は自己肯定感がすごい高い。自分のこと大好き。自分のこと好きって言えるという結果が出たんです。私はもうそれだけでいい。スマホ見ても目悪なっても、そら嫌やけど、一番母が求めるところは自分に自信を持っていろんな事にチャレンジしているような子になってくれたらそれでいい。だから今ある高野口の教育のいいところをもう一回見直して、それを未来につないでいくことが大事だと思います。地域と学校とのつながりは、もちろんなんですけれども、その教育を受けるべき子供たちが全て対象となるような、不登校の子供たちもそうなんですが、不登校の子供を受け入れてるフリースクールが高野口町にはあります。そういう子供達も対象になる、どんな人どんな年代もこの学校のコンセプトに、私たちは包まれるようだなと思えるような、なんかこう一人で空いた

	時間があつた時に学校に行けば私の居場所はあるかしらと思えるような学校になればいいなと思っています。それを実現するためには、あの前回の検討委員会の答申の付帯事項にもありましたように、やっぱりあの高校との連携を再度見直して、ちゃんと県と協議するべきだと思います。
委員	難しすぎて理解できないというのが正直なところです。新しい学校になって、そこに通う子としては、自分が新しくなった「やった、綺麗や」で行けるとは思うんですけど、ここの最後の卒業生とか、もう卒業してる子からしたら、まあ母校が無くなるわけで、その卒業した子のことも考えたらいいかないかなと思いました。
委員	私も市内じゃなく、他市町村でも他府県でもどこか中学校の具体的な取組とか、事例を上げてもらえたらもうちょっと理解ができたと思うんです。こういう理想よねというのもあるんで。グランドデザインもあまりはつきり思い浮かばないんですが、個人的には、あの子供が図書館で本を借りるのが大好きなので、あの本はちゃんと買っているつもりなんですが、この家庭は買ってもらってないかなと言われるぐらい図書館で本を借りてくるんで、図書コーナーではなくて学校の図書館として開放とかしてもらえたら、その地域とのつながりは強く出来るのかなと思います。
委員	「対話のある社会の形成者」についてちょっと説明させていただけたらと思います。3校の校長で考えたのが中学校区のテーマなんです。県の指定を受けまして学力定着フォローアップ授業を3校が4年連続で、その取組をしています。3校に共通して言えるのは、スマホの時間が長くて、ゲームの時間が長いです。本を読む時間はすごく少なくて、去年、小学校6年生の読み聞かせの時間があつたんですが、一生懸命聞いていました。本の読み聞かせも大事と感じました。こども園に来る新1年保護者、それから子供達を対象に話をしましたけど、どうぞ本を読ませてください。昔話でも良いのでやってあげてくださいとそんな話もさせてもらってきました。そんな形で読み解く力をつけようということで、本文を読んで考えて書けるような訓練を毎週してます。やっていく中で、次はそれを発表させなあかん。発表発信ができればそんな全部知識が含まれるなっていう事で発表力・発信力に注力してます。今年のために3校で取り組んでいます。それで言うと、対話的で深い学びとも言われているのです。対話のある社会の形成者っていうことにつながっているわけなんです。家庭対話を通した家庭教育力の向上で、地域でいうと昔から青少年健全育成会、共育コミュニティ、学校運営協議会あります。つくらなくても良いぐらい昔から高野口は地域が取り組んでくれてたわけなんですよね。他の中学校区よりもすんなりとこども園も入った形で、一番モデルになりやすかった。それが形になったのは、今回のグランドデザインになります。歴史と伝統がある高野口中学校ですから私も良い学校をつくっていきたい。
委員	前任校はあやの台小学校だったので、あやの台小学校は校舎ができて13年です。13年の新しい学校から150年の歴史のある学校に来て、結局違いはどこなのかと考えた時、基本的に教室があつて廊下があるのは全然

	変わっていない。そこがこれからどうなっていくのがいいのかなって考えてたんですけど。あの協働的な学び、いろんな学びの形態が変わっていく中で、教室の中で机を移動してとなると、やっぱりスペースに限界があって、活動に制限が出るというのを考えたときにオープンスペースも必要だし、普通の大きさの教室ではかなり厳しい時代に入ってきた。1人1台タブレットを机の上に置いたらそれが落ちてしまう教科書もノートも開けないような状況なので、それこそ大きい机にするとか、軽い机椅子にして動きやすい教室の中の環境を作るのが校長として、そうした方が教員もいろんなことに取り組めるんだろうし、子供たちもちょっと離れて話ができるとか、先ほど言われたみたいにその友達関係うまくいかない子もやっぱり空間が広いと自分の居場所を見付けられるという考え方をすれば、そういう広くて使いやすい、アレンジの効くのが一番いいのかなと。それがこどもにとって居心地も良くなり自分の居場所を見つけられる。自分が動きやすいということは、自分が話しやすい子の近くにすつと行けるとか、そういうようなことをちょっと考えていました。先ほど不登校の子増えて来るとの話だったので、ちょっと休み続いている子については、オンラインで授業するようになってきたら、オンラインで授業できるような教室にしていけないと。タブレットどこに置くことか通信環境どうなんやといろいろそればかり考えると、そっちに気持ちがいつてしまつて全然授業の準備が出来ないとかいうところを考えられる。場所を考えて、あの計画案見た時に教室、特別教室確保したら場所ないということなので、うまく工夫して教室配置とか空間を使っていくのが一番いい、いろんな学習体系に対応できていけるのかと思いました。 地域の中でどうしていくのか。先ほど図書館の話してましたよね。図書館が本当に地域の図書館として活用できて、その図書館に地域の人が本を読みに来てくれてたら、子供たちも図書館に行った時に話をしながら、そのなんてない話の中で子供たちの対話する力がついていくのかなと思いました。自分があやの台小学校から高野口小学校に異動してきて、まず子供たちはこちらの質問に対して自分なりに答えようとしてくれる子が多い。それはやっぱり地域の人と挨拶をスタートとし、地域の人とどれだけ話をしてるのか、帰る時にただいまというだけでもそういう会話力はついてくると思った。中学生にとってそれがどうなんやろうというところがあるので、やっぱり中学生をイメージした時の校舎作りを地域の中にどういう風に入れていくのを考えていかないと自分らだけではちょっとイメージしにくいのかな。中学生であったり、中学校の先生であったり、意見を聞かないとちょっとその辺イメージしにくいかなと思いました。
委員	4月に着任してまいりまして、4月8日に子どもたちと出会いまして2ヶ月たとうとしています。本当にいろいろな思いを持ちながら、学びであったり、今は運動会の練習に取り組んだりと全ての子供たちがいろんな思いを抱えて学校生活を送っているんだなと実感しています。そんな中で、やはり中心に据えていきたい柱となる所と言いますと、多様性の包

	摂も大事だよっていうフェーズにきているという話もあります。子ども一人一人の基本的ニーズをしっかりと把握して大切にできれば、そんな学校にして行きたいなというところは中心に考えたいなと思っています。
副委員長	まず調べたのが、皆さんの懸念している英語の「コンセプト」を調べました。基本構想と言ってくれたら頭に入ります。「グランドデザイン」これも「あるべき将来像」と言うてくれたら方が日本人だから頭に入ります。だから余計な英語とか使うからかっこいいんじゃないくて、頭に入るものを生徒に伝えていきたい。だから皆さんの意見も素晴らしいんです。これが実現できるかどうかは分からないけど、もっともっと議論できるように資料の事前配信とか、これ事務局と一生懸命していきたいと思います。1つだけ、皆さん図書館利用が素晴らしいと言ってくれたんで、僕はもっともっといいなと思ってるのは、企業を参画させて、カフェもあつたらみんな来やすいよね。食堂施設があつたら、子供食堂もすぐできるよね。そしたら市民の皆さんがすぐに入ってこれるよね。交番まで玄関に作ってほしいぐらいです。皆さんがあそこ行こらよ、あそこ行ったらええやん。先生方も多分時間がなくて、この教育ばかりに時間取られないよね。昔と比べて今はね。だからもっと市民に利用できるような市民全員が通える学校、これが私の希望するコンセプトです。
委員長	はい、皆さんのあの率直な意見を出していただいてありがとうございます。私の方からも手短に1つ2つと意見をということで言いますと、あの先ほど「多様性の包摂」というお話もあつたかと思いますけれども、一つはインクルーシブな学校というのを何処かで目指していかないといけないんじゃないのかなと思います。先ほど不登校のお話もありましたけれども、そのインクルーシブ観点でいくと、これからの学校で必要なのは、不登校の子供もそうですけれども、特別なニーズを持っている特別支援の子供たちも含めて考えていかなければいけない。そういう子供も増加して来ていることにも目を向けながらと思います。さらにこれからはおそらくこの地域でも外国籍の子供が当然増えてくることが予想されますので、そういう子供たちも含めた学校というの考えるということも視野としていれていかなければいけないと思います。さらに付け加えるとなんですけども、中学校ぐらいになると、その性的マイノリティの問題も当然出てくると思います。そういうトイレの問題は建物に直接関わってくるということで、インクルーシブな学校の在り方も1つは考えなければいけないと思います。もう1点は、私がイギリスの方の研究もしているんで、イギリスの学校にも行く機会があるんですけども、イギリスの学校を海外の学校と比べた時に、日本の学校はやっぱりちょっと子供たちに優しくないよなっていうのをつくづく感じます。何かと言いますと、日本の学校は寒くて暑いです。実際にエアコンつきだしたのも最近ですし、やっぱり子供たちが勉強に集中するとなったら、暑い中ではしんどい寒い中ではしんどいのは事実です。私たち大人はそういう環境では仕事をしていない方がほとんどだと思うんです。普段の仕事場ではエアコンついて快適な中で生活しているんです。でも子供たちには我慢さ

	せているという日本の現実みたいなものを海外の学校へ行くと目の当たりにします。そのような話をすると非常にショックですけども、それ虐待じゃないと言われることもあるんです。生活の居心地の良さ、先ほど、ほっとできるアンケートの回答が一番多かったとお話しましたがけれども、生活空間と見た時に、子供が居場所と感じられ、快適に過ごせる様な空間それを学校に求める視点が非常に大切ではないのかと皆さんの意見を聞きながら思い返しました。
委員長	皆様、貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいたこれらの意見を参考にしながら、6月に開催される予定の地域ワークショップ、学校ワークショップで出た意見も踏まえて、基本コンセプトの素案の検討を事務局にお願いしたいと思います。第2回ではそれをもとに皆さんの率直な意見を聞かせて頂きたいと思いますのでご協力の程お願いします。では次に委員さんのご意見の中にもありましたけど、具体的なイメージみたいなものということで、先進事例の紹介を建築事務所の方からお願いしたいと思います。
建築事務所	先進事例説明
委員長	先進事例の説明をしていただきましたどうもありがとうございます。それでは今後の基本計画スケジュールの説明を事務局にお願いします。
事務局	それでは、基本計画のスケジュールについて、ご説明いたします。 資料25, 26ページをご覧ください。 5月26日1回目検討委員会です。ここから9月にかけて、7/14, 8/17の3回で検討委員会を開催していきたいと思います。並行しまして、地域の方々との「地域ワークショップ」や、生徒たちとの「学校ワークショップ」も並行して実施し、日程は記載のとおりです。特に地域ワークショップ参加者を募集しておりますのでお知り合いの方にお声掛け頂きたいと思います。広く意見を吸い上げてまして、7月の第2回検討委員会ではコンセプト素案を提示し、第3回検討委員会において、コンセプトと整備方針などを決定し、答申をいただきたいというスケジュールで進めていきたいと考えています。以上です。
委員長	それでは続いて次第にあります協議事項(2)ワークショップに向けてにご意見をいただきたいと思います。先ほどのスケジュールのところがありましたように、第2回の委員会の開催までにワークショップが開催される予定です。資料の方を見て頂くとわかります様に、地域のワークショップと学校のワークショップという2種類のワークショップが計画されております。学校のワークショップの方では、子供達それから教員の方を中心に、ワークショップをして頂くとは伺っております。地域のワークショップの方では保護者、地域の方々の意見をここで聞いておきたいとお話を伺っております。今後予定されているワークショップのことについてどんな点について意見が欲しいか、テーマ、そういったことで何かご意見があれば発言をお願いしたいと思います。
副委員長	ワークショップにどうやって集客するおつもりなのか伺います。
事務局	参加者の集め方です。地域ワークショップもなんですけども、高野口地区の方に回覧を回しています。LINEとかホームページで情報を出してまして、参加者を募っている形です。LINEでの配信を流していますので、見ていただいて

	参加していただけたらと思っています。
委員	ありがとうございます。今日の会議の内容も今日の欠席者の方にも次回までに内容をまとめたものを皆さんにお配りしてほしいです。次来た時に浦島太郎では申し訳ないですし、今日の会議のまとめも皆さん全員に出してほしいです。次回までにご意見いただきたいのであれば、メールもファックスになんでもしますので、そういった機会も与えていただきたいと思います。もう一点なんですけれども今日は高野口中学校の校長先生が来られています。学校配信のテトルでも重ねてワークショップの配信をしていただければ、またその広報を見ない家庭もあるので、その方が皆さん携帯持ってたら見れると思うんです。あとはあの議事録に関しても、一旦皆さんに確認頂いてからなるべく早く市のホームページ、高野口中学校区のホームページにリンクして皆さん興味持ってくれるような進捗状況「高野口中学校新しくなるんですよ。」知らない方のまだ多いんでそのご尽力だけお願いできたらと思っています。
委員	同じ思いをしてました。テトルを使っていたきたいのと、学校ホームページと教育委員会の検討委員会のページをリンクさせていただくことはできないでしょうか。興味のあるお母さんたちから、直接私達の方に質問されるんですけど、ホームページ見てもらったら見れるよと、伝えるだけで済みますので橋本市のホームページ見てくださいますと市ホームページはボリュームがありすぎて、見つけられない感じなので、できたら学校とつないで頂きたいです。今回は前回のような口外しないでくださいということはないと思うんですね。なので、早め早めに資料を出していただいて、そしたらここに来られてる人たちがみんな各団体の代表ですので、必ずあの団体におろせと言っているのではなくて、それぞれの団体に所属する人たちと会った時に、意見を聞いてより良いものを持ってこれるようにしたいんです。できるだけ早めに最低 1 週間前には出していただきたい。前回の検討委員会から今回の検討委員会までの間で何ヶ月も間がありましたが、資料が届いたのが昨日の夕方です。これではあまりにも遅すぎますので、私たちもあの時間を割いて来ますので、大事にこの時間を使いたいのので、あの事務局の方もよろしくお願いします。 もう 1 点なんです。みんなの意見を聞いて頂くのは大変ありがたいんですが、日曜日の午後なんです。これでは来れるのは同じになります。実際にも子育てしてる人からしたら、日曜日の午後は習い事をしてたりとか。特に今のシーズン真夏になる前に 一斉に試合終わらせてしまえとか、そういうような流れになってくると思うので、なかなか参加したくても参加できないご家庭も多いんじゃないかなと思うんです。なので、日曜日ばかりというのは何故かしらという疑問が大きいんです。例えば、オンラインでも参加出来る様なワークショップをして頂く工夫をちょっとしていただけないかなと思います。
委員長	ありがとうございます。その他いかがでしょうか。
事務局	今回資料が遅くなり申し訳ございませんでした。次回に向けまして議事録等をまとめて出来るだけ早く公開したいと思います。よろしくお願いします。
委員長	ありがとうございます。今出た意見も反映させながらワークショップの進め方、実際の進め方等についてご検討いただいて有意義なワークショップになるように計画していただければと思います。ワークショップの状況については次

	回の検討委員会でも報告いただきたいと思います。 事務局で取りまとめよろしくお願いします。以上で本日の協議の内容は終わりましたので閉会にあたり教育長より挨拶をお願いします。
教育長	長時間にわたりまして、協議いただきましてありがとうございます。あの皆さん方のご意見を聞かせてもらう中で、私自身の思っていることと重なっているところについてちょっとお話しさせてもらいます。それは何かというとハードを造るのが目的ではないということです。結果としてハードをどう造るかその前にあるのは、子供の実態であり、子供をどう育てたいか、地域の人たちにどう関わってもらえるようにしていくか、保護者にとっても入って来て貰いやすい学校にどうしていくか。そこがあって、それを形にしたのが校舎という形になります。ここは思いは一緒です。ただ初めの説明の中でちょっと難しいことを説明してしまったというところは、そこは申し訳なかったなそれは思います。けれども、私たちが思っていることっていうのは、文字にするとそういう形で皆さんにこれまでもお示しているっていうことについてはお伝えする必要があるかなと思います。ただどう説明したかっていうことは課題があるなそんな風に思いました。で、また今日お渡しさせてもらっている資料について、今一度見ていただいて、私たちが思い描いている橋本市の子供たちにどうなってもらえたらいいかという思いは、そこは共有できるものと皆さんの意見を聞いて思いましたので、そこについてはしっかり今後もあの具体化する中で、皆さんが本当にこう日頃から考えてくれている具体的な子供の姿としていただいた意見それを反映できるような計画に持っていけることができれば、そんな風に思っております。日頃思ってる思いを言葉にするっていうことは、本当にこうわかりやすくみんなに伝わりやすい。それをすごく感じました。だからそういったことで、どうしてこういうハードになったのかっていうことをみんなに伝えられるような、そんな学校づくりにしていくことが出来たらと思いますので、どうかよろしくお願いしたいと思います。ここから先はちょっと私、あの高野口の応其で勤めたこともあるっていうことで、経験でちょっと付け足してお話したいことなんですけれども、私が応其小学校で務めていた時の子供の様子っていうのは、やっぱり自己肯定感が高かったんですよ。一緒です。それが何故かっていうことなんですけれども、周りの大人の影響だと感じていましたっていうのは周りの大人が子供に向ける目っていうのが優しいんです。褒めてくれるんです。それが子供を育ててるっていうのを感じていたところなんです。これはあの長年にわたって培ってきたその地域の良さだと思います。こういったことも、やっぱりこうしっかりハードということに、落とし込んできたらどういう形になるかっていうところが大事なのかな。それとやはりこうあの弱い立場にある又ハンディを持ってる。そういう子たちにも優しくありたい。それもあの感じていたところなんです。みんなが学校へ来て楽しく生活でき学べる。大人も一緒に学ぶそんな学びや作りに私たちも今後も努めていきたいと思いますので、これからも皆さんのご意見を頂戴しながら進めていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
委員長	ありがとうございました。それでは以上を持ちまして、本日の委員会の方を終

	わりたいと思います。先ほどこちらの方のカードが配られていると思いますので、今日十分に時間がなかった分もありますので、ご意見等こちらの方に書いて出していただければなと思いますし第2回の検討委員会でも今日の様な形で率直に聞かせていただければと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。では最後に事務局から連絡事項等がありましたらお願いします。
事務局	本日はどうもありがとうございました。貴重なご意見たくさんいただきありがとうございます。次回は 7月 14 日火曜日の午後 7 時から今日と同じ 3 階第1研修室の場所で開催しますのでよろしくお願い致します。お帰りの前にひとことアンケートに今日の感想などをお書きください。
建築事務所	地域ワークショップなんですけれども、ぜひ委員の方も参加出来ますので、実際に生の声、お時間ありましたら参加していただければと思います。
事務局	地域ワークショップはご自由に参加いただけるんですけど、ちょっと学校ワークショップは学校の方でさせていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。
閉会	